



一日、三カ月、三年、という言葉の初めて聞いたのは、原付バイクの免許を取ったときだった。そのころに事故を起こしやすいから気をつけると同級生に言われた。ただの語呂合わせのようでいながら、妙に説得力があった。後に、三日我慢すれば三カ月耐えられる、と社会人の心得として言う人に出会い、もともとの出典はどのように使っていたのか気になったが、今もってわからない。

塾を開校してぼちぼち三カ月を迎えようとしている。経営や労務管理をせねばならぬ塾長に比べれば暢気なもので、さして忍耐力の出番もないのであるが、それでも三カ月の間にはいろんなことが起きた。禍福はあざなえる縄のごとし、計画通りに事が運ぶはずもなく、それがために新しいことに道が開け、よかれと思ったことが裏目に出、裏目が見せてくれたものに導かれ、と新しく事を起こして迎えた混乱期の現在ただ中である。

今月初め、東京から顧問を迎えた。算数教育の権威、公立小学校を定年退職後、乞われて私立小学校の校長になった。午後からの講演の前に、我が実家東奥谷教室で特別授業をしてもらった。畳敷きの松下村塾みたいな教室だが、

「いいなあ、うらやましい。ぼくもこういうところで

やりたいなあ。」
と笑う。おもしろいもので、開校するまでどんよりとうらぶれて陰気くさかった実家が、一人とはいえ毎週子どもが通ってくるようになったら、張り切っているように見えるのだ。こっちの見方が変わっただけなんだろうけど。

顧問は、今の小学校に赴任すると、教師の質を上げることと奔走し、下降線をたどっていた入学生を倍増させた。それに要する時間を尋ねると、

「三年ですね。」

出た、ここでも三だ。

「三年で結果が出なかつたら？」

「そのときは方向転換しろ、ということでしょう。」

三年かあ、とつぶやいたら、

「大丈夫、もう一人入ってごらんさい、倍増だ。」

元気づけられているのか、おちよくられているのかわからない。でもその通りである。

あっちにぶつかり、こっちにぶつけしながら迎えた三カ月目だが、顧問の予言は的中した。塾生がもう一人加わったのだ。ついでに(夢は低く、と心に決めたのでこう書くが)落語教室の塾生も誕生した。おーはずないがや(いるはずないでしょ)と思っていたにもかかわらず。こんなこともあるのだ、世の中は。

空き家 22

木幡智恵美

生家の思い出⑨

これまでも里帰りの際に伯母は祖母と一緒にいたので他人という意識はなかった。ただ、一つ家の下で暮らすとなると、身内として感じるが多々出て来た。伯母が家でする仕事は、竈の火の番、消し炭を壺に収めること、畑での祖母の手伝い、庭の草取り、こで掻きなどだ。今の暮らしではそれらの仕事自体、無くなっているものがほとんどだ。

人が大好きな伯母で、近所の人に来てお茶事が始まると、必ずその中に加わった。会話が始まると、うん、うんと頷き、おかしいことがあると歯の欠けた口を大きく開けて笑う。たまに横から口を挟むこともあった。話好きなので、祖母が居ない時に客が来ると、玄関に出て対応した。話していくうちに相手はどうも話が噛み合わないと感じるのだが、うっかり約束事などをしてしまうと困ったことになる。そういうことが重なって、祖母は、自分の居ない時には表に出ないようになっていた。けれども、伯母はいろいろな客の声に引きずられて奥から出てくるのだ。

家のことを手伝うし、食事でも、皿に取り分けられた物以外に自分から手を出すようなことはなく、さほど手がかかる伯母ではなかった。ただ、トイレの始末が不十分で、工場の人も使うトイレは使わないようにし、裏のこでを積んだ小屋の横に作った伯母専用のトイレで用を足していた。

困ったのが時々起こる癩癩だ。「木の芽立ちだけんなあ」などと祖母が言っていたので、春先が多かったのかもしれない。普段は大人しく笑顔でいることが多いだけに、その豹変ぶりにはじめはおっかなびっくりだった。とげとげしい顔になり、口をわなわなさせて怒鳴り散らすのだ。一度、持っていた箸箱で祖母の頭を叩いたことがあり、咄嗟に伯母を抑えにかかった。細い腕ながら、かなりの力で踏ん張られた。茨城の叔母が言っていたことがある。「姉やん(伯母のこと)に抑え込まれたことがあるよ。まだ若くて力も強かつたからね」

癩癩が収まると、バツが悪そうな風をしばらく続け、そのうち何もなかったようにいつもの伯母になるのだった。

30代フリーター ジャニーズ事務所の創業者による少年への性加害が「長期にわたって広範囲に」繰り返されてきたことが、外部の専門家による調査チームによって報告された。「被害」とされていなかったものが何年もたってから「被害」と認定されたのは、METO運動の経緯と似ている。

年金生活者 傷の痛み、とりわけメンタルな痛みは、時を経て増幅することが珍しくない。それが傷を負わせた加害者への告発をあと押しする力となり得ることをこの事件は示している。

体しげがをすると、痛みは遅れてやってくる。あとになって増したりする。負傷した直後から痛み出すと、とつぎに身を守る動作ができなくなるから、時間を置いて痛みが増し、それが負傷の危険度を伝える仕組みになっていると考えられる。

メンタルな負傷にも同じこと、あるいはそれ以上の方が言える。だれかに無礼なことをされても、その瞬間は大した痛みは感じない。あとになって

その場面を思い出し、痛みが増しているのに気づく。そんな経験をした人は多いはずだ。そして、その痛みを始末しようと、日を経てから相手に抗議した経験も。

もし、無礼な扱いを受けた瞬間に強い痛みを感じたら、どうなるか。反射的に相手に殴りかかるかもしれない。倍返しへの罵倒をするかもしれない。衝撃のあまり、その場を立ち去ることもできなくなるかもしれない。いずれにしても、こうむった打撃に比して過剰な反応をしてしまう可能性が高まる。それはわが身を危険にさらす恐れがある。

30代 長年にわたって何百人もの少年が性被害に遭ってきたのに、マスメディア、とりわけテレビが報じなかったのは、視聴率をとるために、タレントを出演させる必要があったからと説明されている。

年金 一見、テレビが事務所に一方的に依存しているような印象を与えるが、事務所の事業はテレビがなければ

成り立たない。ジャニーズはそのテレビの求めるものに最も適応することができた成功例だ。

そうして出来あがったテレビと事務所を持ちつ持たれつの関係は、もしエンターテイメントがテレビ以外の媒体でも不特定多数に提供可能になれば、必ずしも必要でなくなる。インターネットの普及はそれを現実のものにした。

あるコンサルティング会社の経営者が「ジャニーズ帝国の未来に暗雲？」と題して、次のような趣旨の記事を自社のホームページに書いている。

KPOPのBTSは米音楽チャートのビルボードで1位になるなど世界で売れているのに、ジャニーズにはそれができない。日本のテレビ向けに最適化されたビジネスモデルを採用しているからだ。BTSを育てたのは韓国の弱小事務所、テレビに相手にされなかつたので、SNSで過酷なレッスン風景やタレント個人の葛藤まで発信し、全世界にARMYと呼ばれる熱狂的なファンを獲得した。

30代 ジャニーズ事務所のタレントたちは歌も踊りも演技も下手で、KPOPのように海外で通用しないという指摘が性加害事件から改めてなされている。

年金 彼らは下手だからこそウケた。小さい子の芸は下手だから可愛らしく、それが見る者を引きつける。ジャニーズのタレントたちの魅力はそれと同じだ。彼らは小さい子ではないが、顔が可愛いので、小さい子と同じポジションにあり、その芸のたどたどしさが魅力となった。

ジャニーズの創業者はそんな少年たちをスカウトしては性加害を繰り返していたと指摘されている。彼は売れる少年を見抜く天才だったと言われているが、その才能の正体は犯罪につながる性的指向にあったということが出来る。

30代 俺は知らないが、昔は歌の下手な歌手が「国民的アイドル」になるなど考えられなかつたはずだ。

年金 変化の背景には、国民の大多数が食す食べる物を心配しなくても済む

ニュース日記 892
中村 礼治

時代が求めた素人芸

を意味し、その権力を手にした国民はそれに相応する処遇を求めるようになった。

それは芸能に対しては、雲の上の存在だった俳優や歌手に雲の下に下りることを望む要求となつてあらわれた。それにこたえるために、テレビや芸能事務所などエンターテインメント業界は、俳優や歌手に下手な芸、素人並みの芸を求めようになつた。玄人と素人の垣根を低くしたり、取り去つたりする「芸の解体」はジャニーズのタレントに限らず、素人をスタジオに呼び込んだり、逆にタレントが素人のいる街に出ていったりする娯楽番組の流行などとなつてあらわれた。

エンターテイメントに対する日本の地上波テレビの支配力はまだ強いが、これから次第に弱まっていくことは確実だ。ジャニーズのビジネスモデルにもはや未来性はない。そのことを双方が感じ始めたことが、ジャニーズ側の謝罪会見と、マスメディアの「反省」につながつたとみることが出来る。